

皮膚・排泄ケア認定看護師の活動

三原 恵理

日本医科大学付属病院本館10階病棟

Eri Mihara

Department of Nursing, Nippon Medical School Hospital

(日本医科大学医学会雑誌 2015; 11: 202)

皮膚・排泄ケア認定看護師とは、①創傷ケア (Wound)・②ストーマケア (Ostomy)・③失禁ケア (Continence) を専門に実践、指導、相談を行っている看護師です。(3領域の頭文字をとってWOCナースとも呼ばれています。)皮膚・排泄ケアの専門性はストーマケアを基盤として始まり、次第に創傷ケアや失禁ケアへと拡大してきました。3領域に共通するスキンケアは、皮膚・排泄ケアの領域の基礎となる部分であり、健康を害した皮膚ならびに皮膚障害のリスクの高い脆弱な皮膚に対し、健康を取り戻すことを目的としています。また、排泄は人間の基本的ニーズであり、身体の機能低下や社会生活を制限する排泄障害に対して苦痛を取り除き、尊厳を保ち、生きる意欲や人間らしさを取り戻すためのケアを専門的な知識・技術を用いて援助することを目的としています。

院内における主な活動内容は、①創傷ケア：皮膚・排泄ケア認定看護師の専門性を語るうえで、社会的にも認められた実践能力「褥瘡ケア」です。2002年に褥瘡対策未実施減算が施行され、2006年に診療報酬として「褥瘡ハイリスク患者ケア加算」が新設されました。看護で独自に診療加算が得られたことは初めてのことであり、看護師の専門性が社会的にも認められたことを証明しました。現在、褥瘡発生率が減少するように、褥瘡予防ケアの教育・指導、褥瘡発生時のケア指導、褥瘡回診などを行っています。その他、高齢

化に伴う脆弱な皮膚に対するスキントラブルへの予防・治療ケアなどを行っています。②ストーマケア：ストーマケアの対象には消化管ストーマ、尿路ストーマだけではなく、近年増加している胃瘻 (PEG) や気管切開孔のケアも含まれ、院内においてオストメイトが持つ問題解決のため、局所ケアはもとより、ストーマ装具の選択、ストーマ受容までのプロセスの援助、生活指導などを行っています。また、入院期間の短縮に伴い、ストーマケアを十分に習得できないまま退院される方もいらっしゃいます。そのため、ストーマ外来を行い退院後のストーマ造設者の長期的なフォローアップを行っています。③失禁ケア：急性期病院では、医原性に排泄機能に障害を残す患者の失禁ケアのニーズが高まっていますが、褥瘡ケアやストーマケアの対応が優先され、失禁ケアが後回しにされがちです。そのような状況の中で、本院では泌尿器科の医師の協力を得て、外来での前立腺全摘出術後の尿失禁や女性の腹圧性尿失禁に対して、骨盤底筋体操指導や自己導尿指導を行っています。現時点での失禁ケア分野における活動はそれほど多くはありませんが、今後も特定機能病院で実践していかなければならないことは何か検討し、より良い看護の提供・院内の看護ケアの質の向上に努めていきたいと考えています。

(受付：2015年5月2日)

(受理：2015年9月14日)